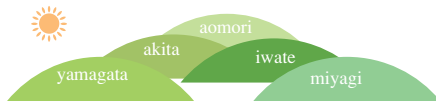


みどりの東北



平成20年6月

No.51

発行／東北森林管理局
秋田市中通五丁目9-16
TEL.018(836)2191

MIDORI no TOHOKU

<http://www.tohoku.kokuyurin.go.jp/>



大朝日岳（標高1,870m）

大朝日岳は山形県と新潟県の県境上にある朝日連峰の主峰で、北の出羽三山、南の飯豊連峰とともに磐梯朝日国立公園にあります。朝日という山の名は日本に十数箇所ありますが「朝日連峰」といえばこの山のことを指します。

雪が残るこの時期は登山道沿いにヒメイチゲの小さな花が咲いています。

写真は中岳中腹より撮影（写真提供：置賜署）



ヒメイチゲ

トピック

美しい森林づくり

「活力溢れる事業体をめざして」

青森県青森市 青森県森林整備事業協同組合

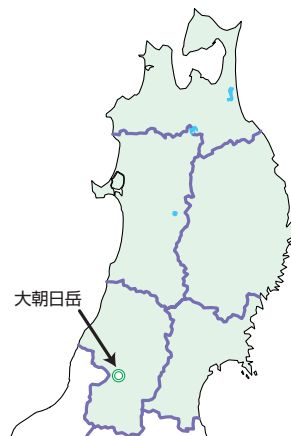
森林官からの投稿

「人々を魅了する国有林の中で」

三八上北森林管理所 八溪山・十和田森林事務所 榎戸 理洋

我が署の隠れた名所

盛岡森林管理署「御堂新田の滝」



環境に優しい大豆油インキを使用しています。



東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

特集コーナー

山地災害に備える

皆さんのくらしを守る治山事業

治山課



日本は、国土の約三分の二が森林に覆われる緑豊かな国土に恵まれています。しかし、日本の地形や気象条件が山地災害を起こしやすい特性を持つているため、日本では梅雨前線や台風に伴う集中豪雨などにより毎年三千六百箇所もの山地災害が発生し、被害を及ぼしています。

このため林野庁では、都道府県及び市町村と一体となって、地域の皆さんの防災意識の高揚を目的とし、「山地災害に備えよう！」を合い言葉に五月二十日から六月三十日まで「山地災害防止キャンペーン」を展開しています。

さて、東北森林管理局の管内においても毎年のように山地災害が発生しており、昨年九月にも秋田県北部を中心として集中豪雨による山崩れなどの被害が多発しました。

このうち、秋田県仙北市玉川地区では山腹崩壊に伴って土石流が発生し、多量の流出土砂により国道341号線が埋没したため、数日間にあわたって道路が通行止めとなりました。



通行止めとなった国道341号線

この国道は田沢湖から玉川温泉へ至る重要な路線であったため、災害発生後、秋田県道路部局によ

り国道の土砂撤去作業や仮設防護柵の設置などが迅速に行われましたが、その後の降雨や春先の融雪出水等に伴う二次災害のおそれがあったため、恒久的な対策が必要とされました。

このため東北森林管理局では、県道路管理者と協議しながら、早急に災害予算の要求を行うとともに、応急対策として治山ダム一基を直ちに発注し、厳冬期における工事のすえ、本年三月にこれを完成させたところです。

この治山ダムは、完成直後の四月十日に融雪出水に伴って発生した土石流をせき止めて国道の通行



土石流をせき止めて国道を守った治山ダム

の安全を守りました。

このように治山事業では、地域の皆さんの生命、財産を守るために、治山ダムや土留め擁壁などの施設を設置したり、防災機能の高い森林の整備を行っています。しかし、山地災害はいつどこで発生するか予見しづらい面もあることから、山崩れのおそれがある地区などでは、山地災害の危険を感じたら「早めに指定された場所へ避難する」「危険な場所には近づかない」ことが大切です。また、普段から家族や地域ぐるみで山崩れのおそれがある場所や避難場所について十分に話し合うとともに、実際に自分の目で確認しておくといざという時に安心できます。

東北森林管理局では、治山事業の実施を通じて、さきの例のような山地災害の復旧に加え、海岸地区でも強風や飛砂などの被害から農地や家屋を保全するためのクロマツ林の維持造成などにより、皆さんのくらしを守り、地域の安全安心の確保に努めています。今後、関係機関と連携を図りながら、災害の未然防止や災害発生後の迅速な復旧等に取り組み、地域の振興にも貢献していきたいと考えています。



美しい森林づくりにむけて 活力溢れる事業体を めざして

青森県森林整備事業協同組合

当青森県森林整備事業協同組合は、中小企業協同組合法に基づく事業協同組合として昭和四十六年に創立し、傘下の組合員五十名を擁し、森林整備及び素材生産、素材の共同販売及び委託販売、立木の共同購買等を主な事業としています。

林野庁が発表した国有林野事業の平成二十年度における主要取組事項によれば、本年度から京都議定書の第一約束期間がスタートしたことを受け、温室効果ガス削減目標実現のため、年間十一万haの間伐目標を設定「美しい森林づくり」を積極的に推進することとされています。また、百年先を見通した森林づくりの取組として、木

材の安定供給と木材利用の推進、民国連携強化等を打ち出しています。

したがって、本年度国有林の政策目標からすれば、まさに、当組合の業務運営の性格上、これを追い風として捉え、意欲ある林業事業体組織として、チャレンジ精神をもって効率的かつ持続的な方法を模索しながら「美しい森林づくり」に取り組んでいくことが重要と考えているところです。

しかし、森林・林業の現状からすれば、森林所有者が長期にわたる投資に見合った収入を得ることが困難であることから、林業従事者の意欲減退など、まだまだ様々な問題点が山積みしていることも事実であり、当組合がこれまで主な事業としてきた青森ヒバ受託材の減少等に見られるように、時代の流れは大きく変化してきており、こうした置かれている課題について、まずは的確に情報を読みとり現状を分析し、収益性の高い

林業生産活動を行っていくことが、ひいては地域に貢献できる林業事業体として生存できる道であると考えています。そのためには、伐採・搬出・流通等について、コスト削減への工夫であり、高性能林業機械等の組み合わせによる作業システム、列状間伐の実践などの取り組みを推進しつつ木材の安定的な供給体制整備など、知恵と汗をかきながら、組合員と一体となつて、地域と連携し取り組んでいくことが当組合としての責務であると感じています。幸い、当組合の組合員の中には素材生産・造林事業・製材業を一体的に営む会社もあり、高性能林業機械の導入による低コスト化への志向、製材及び製材品の流通改善等、試行錯誤しながら懸命に取り組んでいます。

全国第四位のスギ人工林を保有

する青森県、当たり前のことではあります。間伐の実施は急務であり、その伐採・搬出・流通過程において、なお一層のコスト削減に取り組み、山に価値を持たせる工夫をしなければ、地域林業の発展はありません。

今年度も、当組合青年部を中心として、各種現地検討会等を開催するなど「美しい森林づくり」に向けて地域林業の発展を願い、活力ある事業体として頑張つて参る所存です。今後とも東北森林管理局をはじめ、関係各方面の一層のご理解・ご指導をお願いする次第です。



減少しつつあるヒバ受託材



高性能林業機械による低コスト間伐の実施

東北森林管理局

1階ロビーのご案内(6月)

・ミニギャラリー

ふるさとの森写真コンクール作品展
三陸中部森林管理署

・PRコーナー

治山のしくみ
(治山クイズ実施中)

治山課



白神山地周辺における取り組み

～ボランティア団体等との連携のもと
様々なニーズに対応～

藤里森林センター

白神山地が平成五年に世界遺産条約に基づく自然遺産に登録されたことを受け、この地域での森林の保全・管理の強化や森林レクリエーション利用などに対応するため、平成七年三月に当センターが設置されました。

また、白神山地の貴重な自然や生態を良好な状態で維持・保全するため、関係行政機関や地域のボランティア団体などと連携・協力し、巡視活動や登山道・歩道の整備、入山者に対する入山マナーの啓発などに取り組んでいます。



岳岱自然観察教育林内の歩道整備

全・管理や森林・林業の普及啓発、レクリエーション事業を行うための企画、モニタリング調査などを行うとともに、秋田県側の世界遺産地域とその周辺地域の国有林をフィールドとし、森林教室や体験学習、森林とのふれあいのイベントなどの開催を通じ、森林環境教育に積極的に取り組んでいます。

巡視活動については、職員とグリーン・サポート・スタッフの日常活動の中で、遺産地域とその周辺地域の動植物の生息・生育状況や登山道などの状況を把握するとともに、入山者に対するマナー指導などの遺産地域の保護意識の普及啓発に取り組んでいます。さらに、巡視活動を充実させるため、民間ボランティアの方々を「巡視員」に委嘱し、職員等との相互連携の下、効果的な巡視活動を行っています。また、登山道などについては、破損したまま放置しておくこと、植生の踏みつけなどによる被害が発生することから、地域のNPO団体や巡視員の方々、それにボランティア団体と連携・協力して維持修繕を進めています。



自然を教材に直接森林とふれあいながらの学習

た森林教室や体験林業などのイベントを開催しています。これからも、ボランティア団体などと連携の下、様々なニーズに応えていきたいと考えています。

【森のお話】

…コラム…

マツ枯れに負けない マツを創る

マツノサイセンチュウ抵抗性育種

森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場 半田 孝俊

いわゆる松くい虫の被害は、東北地方の日本海側では秋田県と青森県境まで拡大し、特に山形、秋田県の海岸のクロマツ被害が深刻となつています。マツノサイセンチュウと呼ばれている長さ1mmの線虫がマツノマダラカミキリと呼ばれる昆虫によりアカマツ、クロマツに運ばれて、木の中で増えることにより、木の中の水が移動できなくなることにより枯れてしまう病気でマツ材線虫病と言います(写真-1)。

これまでの研究では千本から一万本に一本はマツノサイセンチュウが体内に入っても増えることができない抵抗性の性質を持つていることが明らかになっています。

東北地方で抵抗性のマツを探す事業は平成四年度から始まり、東北育種場管内では、東北育種場と東北森林管理局、関東森林管理局(新潟県内)・署が連携し国有林内から、また被害のない青森県を除



写真-1 マツノサイセンチュウ(上)とマツノマダラカミキリ(下)

く東北四県と新潟県が民有林を対象に、被害の激しい林で生き残った木を探し、抵抗性候補木とした(写真-2)。候補木からつぎ木や種子を増やした苗木にマツノサイセンチュウを人工的に接種し(感染させます。写真-3)、既に抵抗性があるとわかっている基準品種の苗と同程度以上に枯れないものを抵抗性品種としました(写真-4)。

マツノサイセンチュウもマツを枯らす病原性が強いものと、弱いものがあります。全国統一基準で抵抗性を判断するために使っているのは島原という系統です。この



写真-3 マツの苗木にマツノサイセンチュウを接種して抵抗性があるか調べます



写真-2 由利森林管理署管内の候補木

系統を大量に培養して抵抗性の調査をしています。アカマツでは千二百の候補木が選ばれ、三十六の抵抗性品種が、クロマツでは千四百の候補木から十二の抵抗性品種が開発されました。(写真-5)

岩手、新潟県では抵抗性アカマツの苗木の生産が始まり、両県で年間三万一本出荷されています。クロマツは採種園(種子を生産するための林)が若いためにまだ苗木の生産には至っていません。(写真-6)三十年前に抵抗性育種に着手した西日本では抵抗性の苗が本格的に生産され、クロマツの苗を由利、仙台森林管理局が海岸に植栽しています。マツ枯れを防ぐには抵抗性品種だけでなく総合的な防除対策が必要です。



写真-6 種子が取れ始めた宮城県のクロマツ抵抗性採種園



写真-5 マツノサイセンチュウ抵抗性前橋(村上)2のクローン



写真-4 マツノサイセンチュウを接種して2ヶ月後の様子。抵抗性の無いものは枯れています。



指導普及課

仁別森林博物館が
リニューアルオープン

秋田市仁別の仁別森林博物館が装いを新たにリニューアルオープンし、五月三日（土）、記念式典とイベントを行いました。

仁別森林博物館は、昭和三十九年（一九六四年）、秋田市仁別の仁別自然休養林（通称「仁別国民の森」）に開館しましたが、老朽化が進み、来館者もここ数年減る一方でした。昨年、この博物館を蘇らせるべく検討委員会が立ち上げられ、建物の改装と開館以来、初の展示の見直しを行い、晴れてこの日を迎えました。

当日はオープンを祝福するよう



リニューアルされた仁別森林博物館

な晴天となり、改装にご尽力いただいた大勢の来賓の方々と募集で参加した一般市民が式典に出席しました。式典では、まず、局長と検討委員会を代表して秋田大学の林信太郎教授が挨拶されました。林教授からは、世界でこの博物館にしかないであろう「蛭のフイギア」が紹介され、「どこにあるか見つけてみてください」というお話もありました。その後、テープカットが行われ、さっそく生まれ変わった博物館内を見学しまし

た。仁別の森を紹介するコーナーでは、仁別国民の森にある五つの散

策路を示した大きなパネルに、今咲いている植物の写真が貼られています。また、スギの丸太をイメージした円形空間の中では、天然秋田スギを科学的な立場から紹介しており、樹齢の異なる木の細胞を見たり、天然スギと造林スギの重さの違いを体感することが出来ます。そして、一番の見所は明治から昭和四十年までの間、森林鉄道として実際に稼働していたディーゼル機関車です。丸太を運ぶだけでなく地域の人々の交通手段としても活躍した歴史を紹介すると共に、運転席に座ってみることもできます。この他、天然秋田スギの歴史や木材利用の紹介、クラフト製作コーナーなど、「見て、触れて、学べる」体験型の展示も人気となっています。

午後からは、秋田自然観察指導員の方たちが講師となり、募集で参加した方々と博物館周辺の森林を散策しました。木漏れ日の中ではミズバショウ、スマレなど可憐な春の花が咲いていました。また、散策路には巨樹・巨木百選に選ばれている「めおと杉」があり、樹齢二百年以上、樹高三十六m、根元を一つに寄り添うように立つ姿を見た参加者からは、「すごい！」という歓喜の声が上がりました。参加者はゆっくと二時間の散策を楽しみ、イベントは終了となりました。

ました。

これからも新生博物館と周辺ブールドを一体としたイベントを企画し、たくさんの方に仁別森林博物館へ遊びに来ていただきたいと考えております。

指導普及課

「森林の市」開催
秋田駅前「森林」出現！

一般市民の皆さんに森林とのふれあいの場を提供し、森林・林業に関心を持っていただく機会として毎年開催している「森林の市」を、五月十日（土）JR秋田駅前のアゴラ広場で開催しました。今年は六月十五日（日）に北秋田市で第五十九回全国植樹祭が開催されることから、そのプレイイベントとして秋田県との共催で行いました。

メインステージで挨拶に立った河野局長は、「今日一日大いに森林にふれ楽しんで下さい」と述べ、先着五百名に無料配付された「シロスキブ」の苗木は、プレゼンターに全国植樹祭マスコットの「モリツチ」も加わり、あつという間に終了しました。

会場では、森林管理署や関係団

体等の出展を中心に、旬の山菜や木製テーブル、まな板、木馬等の木工品や山野草の販売等が行われ、飛ぶように売れていました。クラフトコーナーでは、大勢の子どもたちが木の実や枝の輪切りなどを使って思い思いの作品作りを楽しんでいました。さらに注目を集めたのは、しいたけの駒打ちとスライド式木製ブックエンド作成のコーナーで、長蛇の列が出来る大盛況となりました。

また、歩行者が途切れない仲小路では、白神山地の巨大パネルの展示、昔懐かしい森林鉄道・筏の映像を放映しました。特に、初めて実施した青森ヒバに含まれるヒノキチオールの香りを楽しんでい



プレゼントのシロシキブを配付する河野局長



大勢の参加者で賑わった「森の市」

ただく企画では、市民の皆さんが一緒に驚いていました。出展者からは、「とても良く売れた」、「やはりお客様が多いと力が入る」などの声が聞かれ、木工品を購入した方々からは、「こんなイベントがあったことを知らなかった」、「駅前で山の幸に巡りあって幸運でした」などの声がありました。

局構内で開催した昨年は約三千名の入出を記録しましたが、今年が集客が容易に出来る場所であったことから、推定で六千名の参加があったと思われまます。参加いただいた皆さんに感謝を申し上げ、来年もさらに充実した「森林の市」にしていきたいと思っております。

米代西部森林管理署

「風の松原」を
市民の手で守ろう

五月十一日(日)、能代市「風の松原」において、「風の松原を守る市民ボランティア大会」が開催されました。

この大会は、急増した松くい虫被害から歴史ある松原を市民の手で守ろうと平成十五年から行われており、今年で六回目となります。市内の六十三団体が構成するボランティア協議会が主催し、当署もその一員として積極的に協力しています。

当日は、さわやかな五月晴れのもと、局署の十五名を含め、地元企業やボランティア団体、市内の高校生など約七百名が活動に参加しました。

作業に先立ち、実行委員長や来賓として参加した河野局長などから「今年には北秋田市で全国植樹祭が開催されるなど記念すべき年、市民の手で松原を守ることににより地球環境に目を向ける絶好の機会」などあいさつがありました。

その後、作業内容の説明を受けた参加者は、防風ネットを利用した特製タンカやゴミ袋を持ち、マツノマダラカミキリの幼虫が入っ

ていたり、産卵する可能性のある松の枝や、ポイ捨てされたゴミを林内から運び出していきました。

約二時間で集められた松の枝はトラックに積み、能代市内のバイオマス発電所に運ばれました。「風の松原」国有林における松くい虫被害量は、三年連続してピーク時の十分の一で推移していますが、当署としては、引き続き気を緩めることなく地域一帯となつて防除に取り組んでいきたいと考えています。



松枝を運び出す高校生

山形森林管理署

自然観察指導員 白壁
洋子氏のガイドによる
森林浴の集いを実施

平成二十年度森林ふれあい推進事業の第一回「森林浴の集い」を五月八日西蔵王の国有林において

「白壁洋子氏と歩く大山桜と春の森林浴」と銘打って実施しました。

当署では平成元年から職員員のガイドによる「森林浴の集い」を行って来たところですが、今年度は後継者の育成などもかねて自然観察指導員の白壁洋子氏にガイド役をお願いし実施しました。



白壁指導員と参加者一同記念写真

五月に入ってから夏日が続いたこともあって、大山桜は標高の高い所しか残っていませんでしたが、三十一名の参加者は白壁講師が説明する大山桜の特徴について熱心に聞き入っていました。

コースは瀧山登山道沿いに慈覚大師円仁などゆかりの史跡もあることから、植物のほか蔵王瀧山の歴史にも触れました。当日は瀧山大権現の大祭りに当たり参加者全員で参拝することもできました。

また、間伐実施箇所では署員から間伐の必要性や国有林の業務などについての説明も行いました。

白壁講師からは、蔵王の植生の話だけでなく、里山にも国有林が

あるのでもっと親しんでほしいとの話がありました。

今回の外部講師によるガイドについて、参加者からは大変好評を得ることができました。

当署では今年度五回のうち二回外部講師を依頼しての事業を計画しています。

宮城北部森林管理署

「よみがえれ緑の島金華山」

第四回ボランティア植樹

五月十七日、金華山島の東の地区の松くい虫被害跡地において「みやぎを育む森づくりよみがえれ緑の島金華山」をスローガンに第四回ボランティア植樹が行われました。

この取組は、「NPO法人森林との共生を考える会」「宮城県」「石巻市」と連携して実施しているもので、今年で四年目になります。

当日は、天候に恵まれ、一般公募によるボランティアや地元関係者など初参加のローソンを含む十一団体約百二十名が参加しました。ボランティアによる参加者は、当署員から島の自然や松くい虫・ニホンジカによる被害状況の説明を受け、また、途中、ニホンジカ

に遭遇しながら約5kmを歩いて植樹箇所に着きました。

参加者は、ニホンジカの食害を防ぐために設置した防鹿柵内に島に緑がよみがえることを願いながらクロマツ二千本を懸命に唐鋤をふるって植えていました。

署では、今後ともボランティアの力を借りながら、金華山の森林再生に取り組むこととしています。



金華山の森林再生に集まったボランティア団体等

盛岡森林管理署

遊々の森「松尾鉦山跡地再生の森」を協定締結

松尾鉦山跡地における森林の再生活動は、東北地域環境計画研究会が平成十四年度から植樹活動を実施、平成十八年度からは盛岡森林管理署も地域発案システムの 일환として共催参加しています。これらの活動がマスコミ等に取

り上げられたこともあり、松尾鉦山跡地の森林の再生活動について、関心が高まり地元八幡平市、各民間団体より活動に参加したいとの要望が高まりました。

このような中で、今後の再生活動を行うに当たり、これらの団体間において、植栽樹種をはじめとする植樹方法や活動場所等についての連絡調整、連携協力を行うことを目的として、「松尾鉦山跡地再生の森協議会」が二月一日に設立されました。この協議会と、国有林でもある松尾鉦山跡地を管理する盛岡森林管理署、鉦山跡地の公害対策を取り組んでいる岩手県の三者間で五月二日、地元報道機関が取材する中で、盛岡市岩手県公会堂において、遊々の森「松尾鉦山跡地再生の森」の協定調印式を行いました。



松尾鉦山跡地の森林再生に向け握手する関係者



待望の架け替え作業が終わった錦橋

また、当日は調印式の前に、一般公募による参加者が松尾鉦山の郷土苗をダンボール製の鉢に植え替えるイベントを行いました。森の里親として自宅に持ち帰り育て、今年度実施される森の再生活動で植栽することとしております。

下北森林管理署

薬研林道「錦橋」
渡り初めを実施

橋脚に亀裂が入り、通行止めとなっていたむつ市大畑町の薬研林道にかかる「錦橋」の架け替えが終了し、四月二十四日（木）、当署、むつ市副市長ほか関係者出席のもと、現地において開通式典を行いました。「錦橋」は、薬研キャンプ場（国設薬研野営場）への

連絡橋ともなっていますが、二年前に利用可能になります。

当日は小雨の中、多くの報道機関が訪れ、当署、むつ市、大畑町観光協会の関係者によるテープカットのあと、利用者の安全を祈願し、参加者全員で渡り初めを行いました。

また、「錦橋」を渡った場所にある薬研キャンプ場は、薬研温泉郷の中ということもあって、利用者数は年間約六千人にのぼっています。アウトドア派の人たちはもとより、地域から再開を望む声が上がっていました。今回の「錦橋」完成で、地元関係者からは「これで万全の状態で運営できる。」と多数の感謝の声があったところ。当署においては、林道等の安全通行の確保を図るとともに、国有林をふれあいの場として有効に活用し、地域振興へ貢献していきたいと考えています。

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター

「第一回朝日自然塾」
新緑の白布平ブナ林で
森と遊ぼう

本年度第一回朝日自然塾が五月二十四日（土）小国町白布平で開催されました。



朝日自然塾は、朝日山地森林生態系保護地域に関わる自然保護団体をはじめとする関係十二の団体や機関が企画運営するもので、今回は小国の自然を守る会、山形県猟友会のメンバーを講師として行われ、参加者の募集にあたっては地域の子育て支援ボランティアグループの「トライアングル」とタイアップし、地元小学校の親子一七人の参加を得て実施されました。



朝日自然塾は、朝日山地森林生態系保護地域に関わる自然保護団体をはじめとする関係十二の団体や機関が企画運営するもので、今回は小国の自然を守る会、山形県猟友会のメンバーを講師として行われ、参加者の募集にあたっては地域の子育て支援ボランティアグループの「トライアングル」とタイアップし、地元小学校の親子一七人の参加を得て実施されました。

プログラムは、①吊り橋体験、②動物たちの目覚め（足跡、糞で動物を見分ける）、③森のふしぎ（木の葉や実で万華鏡を楽しむ）、④ムササビの巣穴観察、⑤マタギの話、⑥山のルールとマナーと盛りだくさんのメニューで新緑のブナ林を散策しました。

吊り橋体験ではほとんどが初めての体験で、最初はおっかなびっくりでしたが、すぐに慣れて、二本目はすいすい渡り、一番印象に残った体験でした。

吊り橋を渡るとうっそうとしたブナ林がひろがり、所々で講師の先生から森の話を聞きながら、ムササビの巣穴を発見。ムササビ一家はお出かけ中で残念ながら会えませんでした。珍しい発見に興味津々でした。

お昼はスタッフの焼いたイワナの塩焼きをほおばり楽しい一日を過ごしました。

「地元にはこんなすばらしい森があるとは知らなかった。家族でまた来たい。」等の感想が寄せられました。



イ ベ ン ト 情 報

●指導普及課主催 「^{さん ほ じゆく}緑の山歩塾」

イベント名 「森吉の高山植物を訪ねて」

期 日 平成20年6月28日(土)
 実施場所 秋田県北秋田市 森吉山
 募集人員 40名(応募多数の場合抽選、結果は後日通知)
 参加費 大人3,500円・小中学生2,000円(傷害保険料等)
 出発地 東北森林管理局前 午前7時00分発
 申込み期間 平成20年6月13日(金)～18日(水)
 申込み方法 ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号を記入の上、下記までお申し込み下さい。
 その他 昼食は持参してください



イベント名 「乳頭温泉郷のブナ林散策」

期 日 平成20年7月12日(土)
 実施場所 秋田県仙北市 乳頭温泉郷
 募集人員 40名(応募多数の場合抽選、結果は後日通知)
 参加費 大人4,000円・小中学生2,000円(傷害保険料、入浴料等)
 出発地 東北森林管理局前 午前7時00分発
 申込み期間 平成20年6月23日(月)～27日(金)
 申込み方法 ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号を記入の上、下記までお申し込み下さい。
 その他 昼食は持参してください

【参加申込みお問い合わせは】

東北森林管理局 指導普及課 緑の普及係
 〒010-8550 秋田県秋田市中通5丁目9番16号
 電話：018-836-2218 FAX：018-836-2012

●藤里センター主催 「森林ふれあい推進事業」

イベント名 「初夏の白神山地での小岳登山」

期 日 平成20年7月12日(土)
 実施場所 小岳・猿ヶ瀬園地
 募集人員 20名(応募多数の場合抽選、結果は後日通知)
 参加費 3,500円
 応募締切 6月25日(水) 必着

イベント名 「真夏の白神山地での森林浴」

期 日 平成20年8月3日(日)
 実施場所 田苗代湿原・岳岱・太良峡
 募集人員 20名(応募多数の場合抽選、結果は後日通知)
 参加費 3,500円
 応募締切 7月16日(水) 必着

【申込方法】

①往復ハガキに「希望するイベント名、開催月日」を明記の上、住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、当センターに申込み下さい。(家族やグループの場合は、ハガキ1枚に連名でお願いします。)なお、電話等による申込みは受け付けません。

②申込先は

藤里森林センター 〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添24-3
 詳しく知りたい方は、当センターにお問い合わせ下さい。

電話：0185(79)1003



人々を魅了する国有林の中で ～森林官一年目を終えて～

三八上北森林管理署 八溪山・十和田森林事務所

榎戸 理洋

私が管轄している八溪山森林事務所及び十和田森林事務所管内は、その大部分が十和田八幡平国立公園や特別史跡名勝天然記念物、鳥獣保護区等といった貴重な自然の財産を後世に残すべく様々な法規制の定められた地域となっています。

このため、原生な自然が残り生物遺伝資源保存林にも指定されている南八甲田山をはじめ、中でも十和田火山の噴火活動で生まれた二重カルデラ湖として知ら



御鼻部展望台から～十和田湖～

れる十和田湖、その湖を源として優美な水の流れや苔むした岩、名滝、四季折々の彩りを見せる渓谷林が名高い奥入瀬渓流など、水と緑に囲まれた美しい景観を誇る管内となっています。

特に県内、県外の方のみならず、国外からも観光客が訪れ、多くの人々の心に安らぎと感動を与えている奥入瀬渓流ではゴールデンウィークの新緑の季節から紅葉シーズンに至るまで、大型バス等が行き交い、渓流沿いの歩道にはツアー客をはじめとする多くの観光客がデジカメ片手に散策を楽しんでいます。このため、適切な形で国有林が利用されているかなど、林野巡視の励行を通して森林をしっかり管理していく必要性を実感しています。



奥入瀬渓流～阿修羅の流れ～

昨年度は八溪山管内の国有林でブナの巨木が確認されました。この巨木は幹周り6.01m、推定樹齢400年で樹木の先端部の幹が三本に分かれている形状をしており、全国巨樹・巨木林の会から一本木としては日本一と認定されました。これに伴い奥入瀬渓流同様、観光資源として多くの人が足を運び、より国民に身近な国有林となることが期待されます。しかし、反面、観光と自然環境の保全の両立の難しさも生じてきます。三八上北森林管理署では今年の5月に森林の恵みの環境祭というイベントの中でブナ

巨木見学ツアーを行いました。その参加者の中で会話した数人の方が、巨木の素晴らしさに感激すると同時に幹の周りの土が踏み固められてしまう現状に懸念を抱いていました。ブナ巨木が発見され、新聞で報道され始めてから、人が歩くことによって今まで無かった歩道ができてしまったりと歩行者による植生破壊も生じてきています。歩行者には決められたルート



日本一太いブナ巨木

を外れないように歩いてもらう、幹の周りに柵を設けてそこから中に入らないでもらうといった観光と保全の両立のためのルール作りの必要性も感じています。

このような貴重な自然に囲まれた環境の中で昨年度初めて森林官として着任した時はその責任の重さが肩にのしかかりましたが、収穫調査、測定用務、造林・立販監督、地域住民の方々から寄せられる要請の対応等々、目まぐるしく動く日常の業務を、地図片手に山を歩き来し、何とか一年終える事ができました。

まだまだ勉強の日々であり、署内の方々や隣の森林官、現場作業員の方々にも多くの迷惑を掛けており、何度も相談に乗ってもらっていますが、気持ちが落ち込んだ時も現場作業員の方々と山で作業していると自然と笑顔になれ、現場最前線の森林官として国有林の管理・経営に携われることにやりがいを感じ充実した日々を送っています。



森林ガイド事業
～松見の滝～

今後も貴重な国有林を適正に管理していく責任の重さを肝に銘じ、様々な業務を通して知識・経験を吸収し、親身になって力になってくれる多くの先輩方の背中にも少しでも近づけるよう日々の業務に精進していく所存です。

我が署の 隠れた名所

盛岡森林管理署

み どう しん でん たき 「御堂新田の滝」

(見所の概要)

御堂新田の滝は北上川の源流である口マンを秘めた弓弭（ゆはず）の泉がある御堂観音より東へ約2.5kmの朽木川に位置し高さ8m、巾10m規模の滝です。滝から流れ落ちるしぶきの幽玄の世界と四季折々の景観を楽しむことができます。歩道やトイレも整備されており、近隣には平成16年にオープンした川の駅もありますのでともどもご堪能下さい。



交通アクセス

J R東北新幹線いわて沼宮内駅から国道4号を北へ8 Km行き右折、町道御堂新田線3 Km先。



お問い合わせ先

〒020-0061 岩手県盛岡市北山2-2-40

電話番号：050-3160-5915

FAX：019-663-8172